

工事業者様用

- このたびは東芝パッケージエアコン用ドレンアップキットをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
- 取り付けの前に、この説明書をよくお読みになり、正しい取り付けを行ってください。
- 取り付け工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。
- この取付説明書を必ずお客様に渡して、保管いただくように依頼してください。

TOSHIBA

ドレンアップキット取付説明書

形名
TCB-DP31D

警告

- 取り付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する
ご自分で据え付け工事をされて不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 取り付け工事は、この取付説明書にしたがって確実に行う
取り付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 再設置する場合は、販売店または専門業者に依頼する
取り付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。



“安全上のご注意”については、東芝パッケージエアコン(天井埋込形)ダクトタイプの据付説明書、取扱説明書をご覧ください。

取り付け時のお願い

取り付け工事の際、板金端面による切創などのけが防止のため、保護具をつけて作業してください。

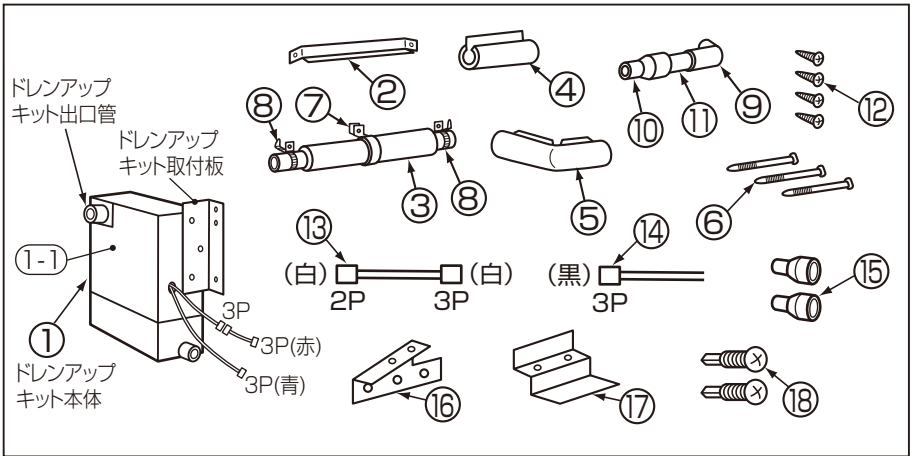
取り付け可能機種

天井埋込ダクト形室内ユニット

AID-P**Hシリーズ、AID-AP**Hシリーズ
MMD-AP**H（140以下）

構成部品

No.	品 名	数 量	No.	品 名	数 量
①	ドレンアップキット本体	1	⑩	異径ソケット	1
②	支持金具	1	⑪	ストレート管	1
③	ホース（断熱パイプ付）	1	⑫	タッピンネジ（φ4×10ℓ）	4(予備1個)
④	断熱パイプ	1	⑬	フロートSW用中継リード組立	1
⑤	エルボ断熱材	1	⑭	ドレンポンプ用中継リード組立	1
⑥	結束バンド	3	⑮	閉端接続子	2
⑦	固定バンド	1	⑯	取付板	1
⑧	ホースバンド	2	⑰	固定板	1
⑨	継手（エルボ）	1	⑱	ドリルネジ（φ4.2×13ℓ）	2(予備1個)



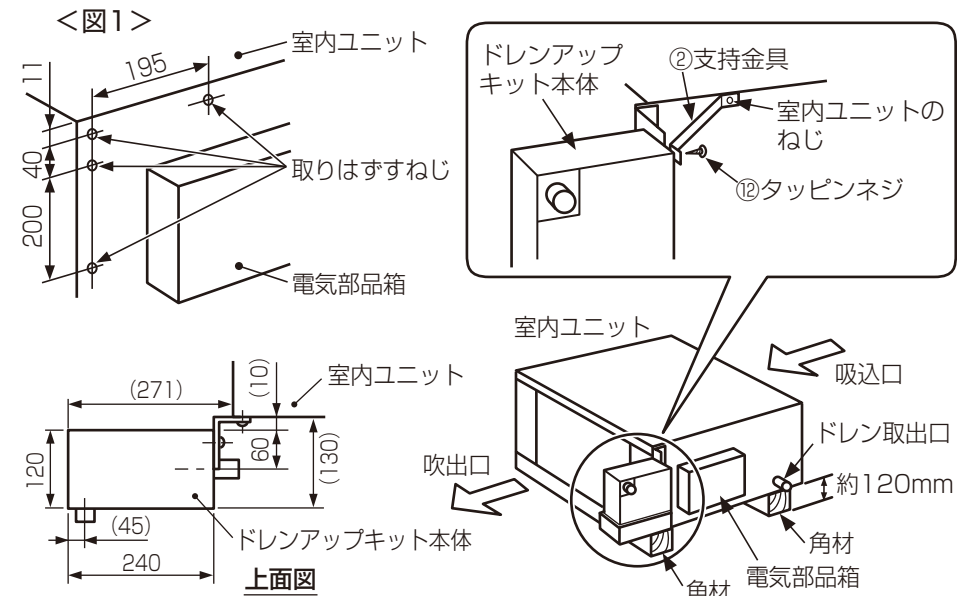
お願い

- ドレンアップキット本体の取り付けは、必ずこの取付説明書に記載されている方法にしたがい、正しく行ってください。
他の方法で取り付けますと、ドレンアップキット本体と室内ユニットとのドレン皿の位置がずれ、水漏れの原因となります。
- 室内ユニットの水平度を確認してください。（水平もしくはドレン取出口側が1° 以内で下方に傾斜して据え付けられていることを確認してください）
- ドレンアップキット本体の下面天井部近傍に必ず点検口を設けてください。

取り付け方法

1 室内ユニットの準備

- 床面でドレンアップキットの取り付け工事をする場合はドレントラップを設ける関係で、必ず、室内ユニットは高さ約120mmの木材等の丈夫な角材に乗せてください。

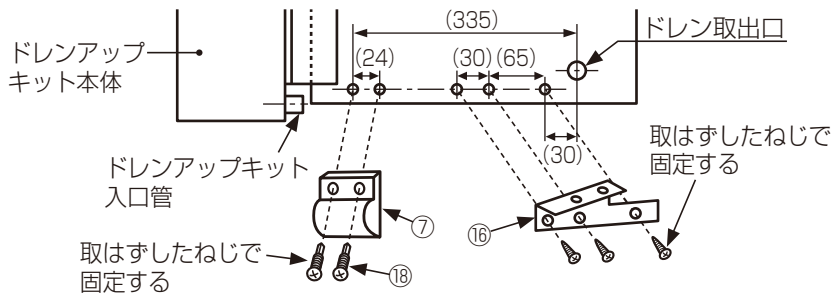


2 ドレンアップキット本体の取り付け…図1参照

- 室内ユニットの電気部品箱左側部の3本のねじをはずし、この位置にドレンアップキット取付板の穴位置を合わせて、はずしたねじでねじ止めします。
- ②支持金具はドレンアップキット本体上部のねじをはずし、⑫タッピンネジと、室内ユニット上面のねじをはずし、このねじにより固定してください。

3 取付板の取り付け

- ⑯取付板を室内ユニットの下記の位置に取り付けます。
（⑯取付板は⑩異径ソケット、⑪ストレート管の角度20° の定規としてご使用ください）
- ⑦固定バンドを取り付けるために、ドレン取出口から335mmのところのねじを取りはずし、⑦固定バンドをそのねじで締めつけ、その右側に⑯ドリルネジで下穴をあけながらねじで固定します。
（電動ドライバー使用の際、ねじ山がつぶれて、ねじ締めできなくなるおそれがありますので、穴があいたら途中で止めて、最後は手締めで行なってください）



4 ホースの接続

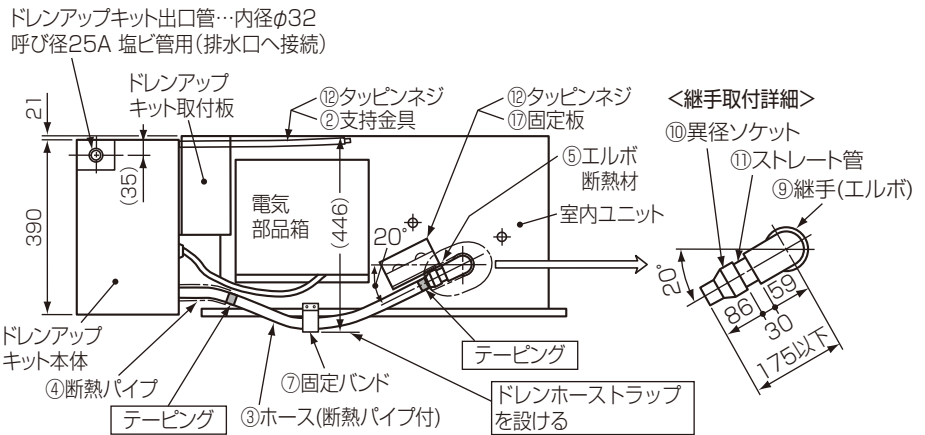
■標準的な接続…図2参照

- 室内ユニットのドレン取出口に⑨継手（エルボ）、⑪ストレート管、⑩異径ソケットを接続します。（配管の接続には塩ビ用接着剤を使用してください）
- 室内ユニットのドレン取出口にテフロンシーлтテープ等を巻いて、⑨継手をねじ込みしてください。水漏れの原因にならないように⑨継手側を持って60～100Nmで締めつけ、20° 下方に向くように取り付けます。
（ホース部にドレントラップを設けるためです）
- ⑩異径ソケットとドレンアップキット入口管を③ホースで接続し、両端は⑧ホースバンドで締め付けます。③ホースは継手に25mm程挿入します。
- 塩ビ継手部およびドレンアップキット接続部のホースは、付属の④⑤断熱材で断熱します。
（なお、断熱材の接合部は水漏れ防止のため、テーピングして断熱を完全にしてください）
- ⑰固定板を⑯取付板に⑫タッピンネジで固定します。
（この⑰固定板は20° の角度を確保する部品ですので、必ず取り付けてください）

お願い

- ③ホースの中央部はドレントラップを設けるため、必ず付属の⑦固定バンドで室内ユニットに固定してください。
（このトラップがないと水漏れの原因になります）

<図2 取り付け要領（標準）気化式加湿器（TCB-HS51D）組み込み時含む>

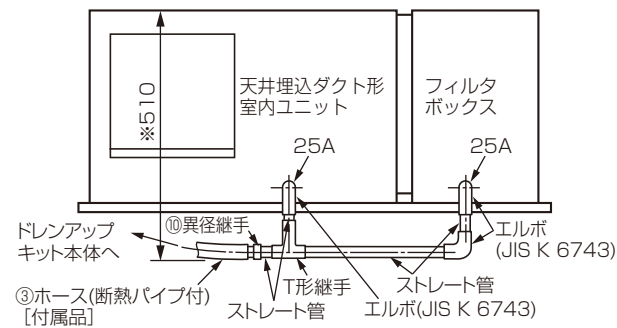


■超音波加湿器組み込み時の接続…図3参照

- フィルターボックスに超音波加湿器を組み込む場合は、図3のようにフィルターボックスのドレン取出口を室内ユニットのドレン取出口と接続した後、ドレンアップキット本体へ接続します。（配管部品は現地手配です）
（寸法※510mmは必ず確保してください。ドレン水をスムーズに排水するためのドレントラップを設けるためです）
- ドレン配管は厚さ10mm以上の断熱材で水漏れ防止のため、隙間なく断熱します。

<図3 取り付け要領（超音波加湿器組み込み時）>

ドレンアップキット本体の取り付けは図1参照のこと
（下記のエルボ、ストレート管、T形継手は現地手配です）

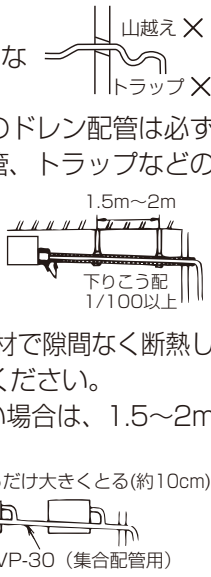


ご注意

ドレンアップキット本体のホースは、室内ユニットより下側にホースが通りますので吊り下げ前の取り扱いにてホースに損傷（割れ）のないようご注意ください。

5 ドレン配管

- ドレン配管はドレンアップキット出口管より高く据え付けないでください。
- ドレンアップキット本体のドレンアップキット出口管からのドレン配管は必ず下り勾配(1/50～1/100)にして、途中に山越え、鳥居配管、トラップなどのドレンポンプの負担になるものは設けないようにしてください。ドレンポンプの故障の原因となります。(また、ドレンアップキット出口管に無理な力がかからないように、たるみ、ゆるみが出ないように支持固定してください)
- ドレン配管は水滴落下防止のため必ず厚さ10mm以上の断熱材で隙間なく断熱します。ドレンアップキット出口管の接続部も必ず断熱してください。
- ドレン配管の横引きは20m以下にしてください。配管が長い場合は、1.5～2m間隔で支持金具を設け、波打ちを防止してください。
- 集合配管は右図のように施行してください。
- エア抜き管は付けないでください。ドレン水が吹き出し水漏れの原因となります。



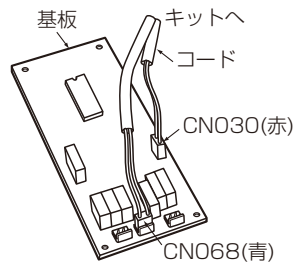
6 配線

[AID-P* * 1H, AID-AP* * 1H, MMD-AP* * Hの場合] …図4・図5参照

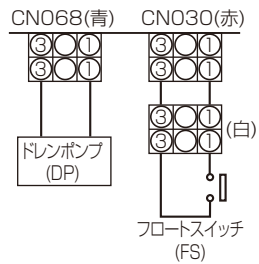
- 室内ユニットの電気部品箱のカバーをはずします。
- 電気部品箱内のCN068(青)にドレンアップキット本体の3Pコネクタ(青)を差し込みます。
- 電気部品箱内のCN030(赤)にドレンアップキット本体の3Pコネクタ(赤)を差し込みます。

*PC板に差し込んである短絡コネクタは取りはずしてください。
(短絡コネクタは使用しません)
(コードは室内ユニットの電気部品箱内で⑥結束バンドによりたるみのないように固定してください。)

<図4 配線要領>



<図5 配線図>



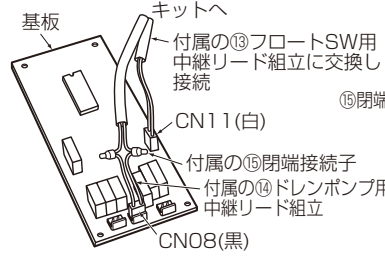
配線はドレンアップキット本体およびコネクタ部に、テンションが掛からないようにしてください。

[AID-P* * OHの場合] …図6・図7参照

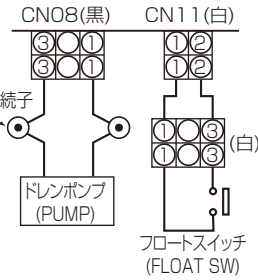
- 室内ユニットの電気部品箱のカバーをはずします。
- ドレンアップキット本体の3Pコネクタ(青)が接続されているリードを先端より200mmでカットし、付属の⑭ドレンポンプ用中継リード組立と付属の⑮閉端接続子で接続します。
- 接続後、電気部品箱内のCN08(黒)に3Pコネクタ(黒)を差し込みます。
- ドレンアップキット本体の3Pコネクタ(赤)の中継リード組立をはずし、付属の⑬フロートSW用中継リード組立を接続します。
- 接続後、電気部品箱内のCN11(白)に2Pコネクタ(白)を差し込みます。

*PC板に差し込んである短絡コネクタは取りはずしてください。
(短絡コネクタは使用しません)
(閉端接続部が電気部品箱内に入るように配線をクランプしてください)

<図6 配線要領>



<図7 配線図>



配線はドレンアップキット本体およびコネクタ部に、テンションが掛からないようにしてください。

試運転

■ドレン排水状態の確認

電気工事・配管工事終了後、冷房運転をしてドレン水または加湿余剰水がスムーズに排水することを確認します。

- 長時間冷房運転できない場合は、室内ユニットのドレン皿に水を注水して、ドレン水がスムーズに排水することを確認します。
- 各接続部から水漏れのないことを確認します。

■フロートスイッチの動作確認

- 冷房運転中、フロートスイッチを動作させます。ドレンポンプは運転したままでエアコンの冷房運転が停止することを確認してください。
- 冷房運転停止後、フロートスイッチを動作させます。このときドレンポンプが運転してドレン水を排水することを確認してください。

<フロートスイッチ位置>



- フロートスイッチの動作はドレンアップキット本体の①②前面板をはずし、フロートスイッチのフロート部をドライバーなどで押し上げて行います。
- フロートスイッチを連続して2分以上動作させるとエアコンが異常停止しますので注意してください。
- 動作確認後、①②前面板のねじは確実に締め付け、仮止めのままにしないでください。

保守・点検について

室内ユニットおよびドレンアップキット本体を、いつも完全に機能させるためには正しくご使用いただくと同時に、定期的な保守点検が必要です。

特に、室内ユニットおよびドレンアップキット本体についてはドレントラップを設けている関係上、汚れやすいので、1回／年、必ず冷房シーズン前にドレン皿の汚れ具合をチェックし、汚れがひどい場合は掃除を行ってください。

◎お客様とご相談のうえ、ぜひ保守点検契約することをおすすめします。